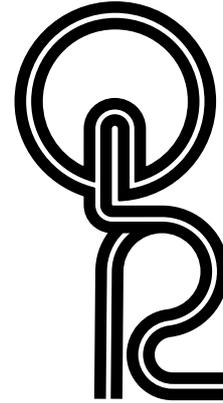


QR Newsletter

第四紀通信

Vol. 8 No. 2, 2001



写真：アメリカ合衆国・Death Valley 中部，西半球最低地点の Badwater (-86m)付近で
沖積錘・岩屑斜面を切る低断層崖。画面左上の岩壁には MIS 6 の旧汀線を示すとされるト
ラバーチンが縞状に付着している（撮影：奥村晃史，10 ページの記事参照）

Vol. 8 No. 2		April 1, 2001	
地球惑星科学関連学会合同大会	2	評議員会報告	11
日本第四紀学会 2001 年大会	6	第四紀研究連絡委員会議事録	14
INQUA Taipei meeting	9	幹事会議事録	14
国際研究集会・出版物の案内	10	会員消息	16

2001 年地球惑星科学関連学会合同大会 (第 3 報)

1. 合同大会会期: 2001 年 6 月 4 日 (月) ~ 6 月 8 日 (金)
2. 会場: 国立オリンピック記念青少年総合センター (〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町 3-1)
小田急線「参宮橋」駅下車 徒歩約 7 分
地下鉄千代田線「代々木公園」駅下車 徒歩約 12 分
3. 「第四紀」セッション (記号 Qm) のプログラム
 - ・オーラルセッション 6 月 6 日 (水) 9:00 ~ 12:15 409 会場
 - ・ポスターセッション 6 月 6 日 (水) 17:00-19:00

プログラムは、地球惑星科学関連学会ホームページ (<http://mc-net.jtbcom.co.jp/earth2001/default.html>) でも確認できます。なお下記のプログラムでのタイトルは、原則としてショートタイトルとして登録されているものです。

オーラルセッション 6 月 6 日 (水) 9:00 ~ 12:15 403 会場

講演: 14 分 質疑応答: 4 分 OHP のみの使用ができます。

- 09:00 ~ 09:18 富山県砺波平野南部における河成段丘面の形成年代と変位地形の分布 中村洋介
09:18 ~ 09:36 呉羽山丘陵で見出された焼岳起源火山泥流堆積物 田村糸子・山縣耕太郎・及川輝樹
09:36 ~ 09:54 上高地の地形発達史 及川輝樹
09:54 ~ 10:12 糸魚川 - 静岡構造線活断層系北部セグメントの前期更新世以降の活動史 植木岳雪
10:12 ~ 10:30 信濃川中部、十日町盆地における活断層とその変位速度 金 幸隆
休憩 (10:30 ~ 10:45)
10:45 ~ 11:03 飛騨山脈における氷成堆積物のルミネッセンス年代測定
..... 近藤玲介・塚本すみ子・岩田修二
11:03 ~ 11:21 Single grain 法による TL 年代測定 林下京子・印牧もとこ・遠藤邦彦
11:21 ~ 11:39 石英格子欠陥中心の UV 照射による減衰特性 福地龍郎・西村剛志
11:39 ~ 11:57 石英を用いた神津島流紋岩の ESR (電子スピン共鳴) 年代測定と風化による放射性
元素の損出が年代算出に与える影響の評価 横山 正・豊田 新
11:57 ~ 12:15 始良 Tn 火山灰の C-14 年代のクロスチェック 宮入陽介・吉田邦夫・宮崎ゆみ子

ポスターセッション > 6 月 6 日 (水) 夜 17:00-19:00

口頭による概要紹介はありません。

- 中国雲南省アルハイ湖における完新世後期の寒冷化事件の記録 三島稔明・松下まり子・兵頭政幸
ボーリングコア試料の初磁化率 竹村恵二・伊藤康人・北田奈緒子
ボーリング試料解析に基づく徳島平野の中央構造線活断層系の完新世における活動
..... 中西利典・竹村恵二・岡田篤正
大阪湾断層ボーリング中の阿多火山灰層の発見と後期更新世の堆積環境
..... 宮川ちひろ・北田奈緒子・斎藤礼子
最新型加速器質量分析計による高精度 ^{14}C 年代測定の第四紀試料への応用 中村俊夫
深海底堆積物中の石英の ESR 信号からみた風成塵の起源 日高清彦・豊田 新・成瀬敏郎
第三紀・第四紀境界付近のテフラ鍵層 'Kd38' の広域対比 高橋直樹・満岡 孝・横山一己
富山県砺波平野、清水断層および法林寺断層の第四紀後期における活動性
..... 中村洋介・竹村恵二・堤 浩之
起伏量と谷密度による山地と丘陵との区分 柳田 誠・佐々木俊法・藤原 治
館山湾南岸の離水浸食海岸地形 石田大輔
浅間山東南麓湯川のポットホール群について (3) 戸田雅之・長内優之

4. 合同大会全体のスケジュール

会場名：IC= 国際交流棟会議室，その他は研修センター棟の部屋番号を示します。(C101 = 1階，C304 = 3階) 各項目は，セッション短縮名を示します。

標準時間帯：AM1 9:00-10:30，AM2 10:45-12:15，PM1 13:30-15:00，PM2 15:15-16:45

会場	6月4日(月) AM1	6月4日(月) AM2	6月4日(月) PM1	6月4日(月) PM2
IC				
101	-	-	A0：放射性廃棄物地層処分	A0：放射性廃棄物地層処分
102	-	-	S0：グローバル観測	S0：グローバル観測
108	-	-	A1：湖沼と水循環	A1：湖沼と水循環
309	-	-	-	-
310	-	-	Sm：地震に伴う諸現象	Sm：地震に伴う諸現象
311	-	-	Jm：活断層と古地震	Jm：活断層と古地震
401	-	-	A2：情報地球惑星科学	A2：情報地球惑星科学
402	-	-	A3：岩石物性と孔内計測	A3：岩石物性と孔内計測
403	-	-	A4：地学教育	-
405	-	-	A5：海底拡大系	A5：海底拡大系
409	-	-	P0：実験惑星学	P0：実験惑星学
416	-	-	-	-
417	-	-	Sn：地震発生の物理	Sn：地震発生の物理
501	-	-	-	-
502	-	-	-	-
503	-	-	-	-
510	-	-	-	-
513	-	-	-	-

6月4日(月)夜 ポスターセッション(17:00-19:00)

該当セッション記号【A0, A1, A2, A3, A4, A5, A7, E0, Em, Jm, P0, P1, S0, S2, Sm, Sn, So】

会場	6月5日(火) AM1	6月5日(火) AM2	6月5日(火) PM1	6月5日(火) PM2
IC	A6：生命・水・鉱物相互作用	A6：生命・水・鉱物相互作用	A6：生命・水・鉱物相互作用	A6：生命・水・鉱物相互作用
101	So：地震活動	So：地震活動	Dm：GPS	Dm：GPS
102	Sn：地震発生の物理	Sn：地震発生の物理	Sn：地震発生の物理	Sn：地震発生の物理
108	A7：キッチン地球科学	A7：キッチン地球科学	-	-
309	-	-	-	-
310	E0：地殻活動予測	E0：地殻活動予測	Aa：惑星大気圏・電磁圏	Aa：惑星大気圏・電磁圏
311	S2：最新の南海トラフ研究	S2：最新の南海トラフ研究	Sq：テクトニクス	Sq：テクトニクス
401	A8：全地球ダイナミクス	A8：全地球ダイナミクス	A8：全地球ダイナミクス	A8：全地球ダイナミクス
402	Gm：地域地質と構造発達史	Gm：地域地質と構造発達史	Gm：地域地質と構造発達史	Gm：地域地質と構造発達史
403	Gn：古気候・古海洋	Gn：古気候・古海洋	Gn：古気候・古海洋	Gn：古気候・古海洋
405	P1：惑星系形成	P1：惑星系形成	P2：太陽系小天体	P2：太陽系小天体
409	A5：海底拡大系	A5：海底拡大系	Ab：火山と水	Ab：火山と水
416	Jn：長期火成活動と火山発達史	Jn：長期火成活動と火山発達史	Jn：長期火成活動と火山発達史	Jn：長期火成活動と火山発達史
417	Sp：強震動・地震災害	Sp：強震動・地震災害	Sp：強震動・地震災害	Sp：強震動・地震災害
501	A9：レオロジーと物質移動	A9：レオロジーと物質移動	A9：レオロジーと物質移動	A9：レオロジーと物質移動
502	-	-	-	-
503	-	-	-	-
510	Em：宇宙・惑星観測	Em：宇宙・惑星観測	En：太陽圏	En：太陽圏
513	K0：ロディニア・ゴンドワナ	K0：ロディニア・ゴンドワナ	K0：ロディニア・ゴンドワナ	K0：ロディニア・ゴンドワナ

6月5日(火)夜 ポスターセッション(17:00-19:00)

該当セッション記号【A6, A8, A9, Ab, Ad, Dm, En, Gm, Gn, Jn, K0, Mm, P2, Sp, Sq】

学会からのお知らせ

会場	6月6日(水) AM1	6月6日(水) AM2	6月6日(水) PM1	6月6日(水) PM2
IC	S3: 鳥取県西部地震	S3: 鳥取県西部地震	S3: 鳥取県西部地震	S3: 鳥取県西部地震
101	Jo: 地殻変動	Jo: 地殻変動	Jo: 地殻変動	Jo: 地殻変動
102	Ac: バイカル古環境	Ac: バイカル古環境	Ac: バイカル古環境	-
108	C1: 流域水文・生物 地球化学	C1: 流域水文・生物 地球化学	-	-
309	P2: 太陽系小天体	P3: 月	P3: 月	P3: 月
310	Aa: 惑星大気圏・ 電磁圏	Aa: 惑星大気圏・ 電磁圏	Aa: 惑星大気圏・ 電磁圏	Aa: 惑星大気圏・ 電磁圏
311	Sr: 地震の理論・ 解析法	Ss: 地震計測・処理 システム	St: 地震予知	Su: 地震一般
401	Ad: 宇宙惑星物質 進化	Ad: 宇宙惑星物質 進化	Eq: 地球内部電磁 気学	Eq: 地球内部電磁 気学
402	Gm: 地域地質と構造発達史	Go: 変形岩・変成岩	Go: 変形岩・変成岩	Go: 変形岩・変成岩
403	Mm: 鉱物物理化学	Mm: 鉱物物理化学	Cm: アーキアン パーク計画	Cm: アーキアン パーク計画
405	S4: 計算機の中の 地球惑星	S4: 計算機の中の 地球惑星	S4: 計算機の中の 地球惑星	Sv: 地球内部構造・ 物性
409	Qm: 第四紀	Qm: 第四紀	Qm: 第四紀	-
416	Jp: 活動的火山	Jp: 活動的火山	Jp: 活動的火山	Jp: 活動的火山
417	U0: 21世紀の 諸問題	U0: 21世紀の 諸問題	U0: 21世紀の 諸問題	U0: 21世紀の 諸問題
501	Ae: 海底に開く窓	Ae: 海底に開く窓	Er: 磁気圏物理	Er: 磁気圏物理
502				
503				
510	Eo: 宇宙プラズマ	Eo: 宇宙プラズマ	G0: 海洋性島弧の 発生と進化	G0: 海洋性島弧の 発生と進化
513	Ep: 電離圏・熱圏	Ep: 電離圏・熱圏	Ep: 電離圏・熱圏	Ep: 電離圏・熱圏

6月6日(水)夜 ポスターセッション(17:00-19:00)

該当セッション記号【Aa, Ac, Ae, C1, Cm, Eo, Ep, Eq, Er, Jo, Jp, P3, Qm, S3, S4, Sr, Ss, St, Su, U0】

会場	6月7日(木) AM1	6月7日(木) AM2	6月7日(木) PM1	6月7日(木) PM2
IC	Af: 地球内部科学	Af: 地球内部科学	Af: 地球内部科学	-
101	Dn: 重力・ジオイド	Dn: 重力・ジオイド	-	-
102	Sw: 地盤構造 ・地盤震動	Sw: 地盤構造 ・地盤震動	Sw: 地盤構造 ・地盤震動	-
108	-	-	-	-
309	Pm: 惑星科学	Pm: 惑星科学	Pm: 惑星科学	-
310	Rm: 地惑物質科学	Rm: 地惑物質科学	Rm: 地惑物質科学	-
311	Sx: 地下温度構造・ 熱過程	Sx: 地下温度構造・ 熱過程	Sx: 地下温度構造・ 熱過程	-
401	Es: 地磁気・古地磁気	Es: 地磁気・古地磁気	Es: 地磁気・古地磁気	-
402	Gp: 深成岩・マグマ	Gp: 深成岩・マグマ	Gp: 深成岩・マグマ	-
403	Gq: 堆積	Gq: 堆積	Gq: 堆積	-
405	Gr: 地球年代学	Gr: 地球年代学	Gr: 地球年代学	-
409	Cn: 大気水圏と 地球環境	Cn: 大気水圏と 地球環境	Cn: 大気水圏と 地球環境	-
416	Jq: マグマシステムと 噴火	Jq: マグマシステムと 噴火	Jq: マグマシステムと 噴火	-
417	Sy: 震源過程・ 発震機構	Sy: 震源過程・ 発震機構	-	-
501	Er: 磁気圏物理	Er: 磁気圏物理	Er: 磁気圏物理	-
502	-	-	-	-
503	-	-	-	-
510	-	-	-	-
513	Et: 大気圏・熱圏下部	Et: 大気圏・熱圏下部	Et: 大気圏・熱圏下部	-

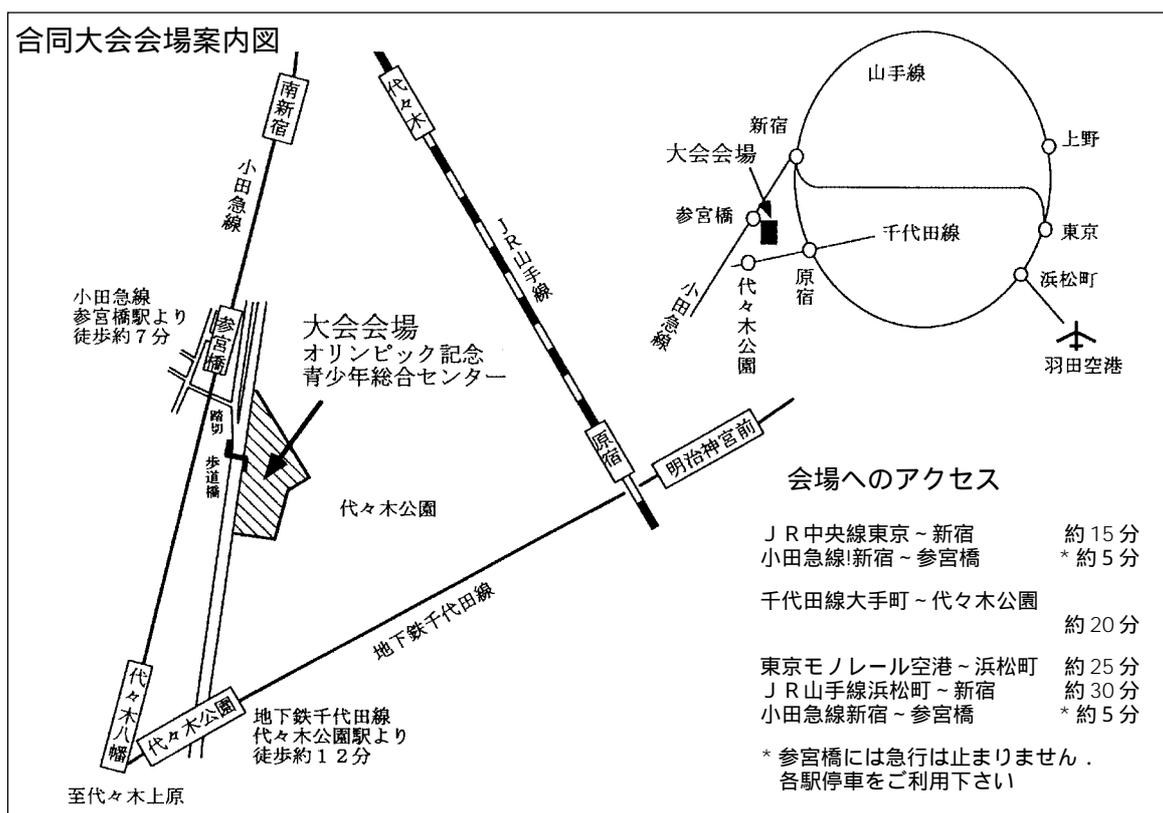
6月7日(木)夜 ポスターセッション(17:00-19:00)

該当セッション記号【Af, Al, C0, Cn, Co, Dn, Es, Et, G0, Go, Gp, Gq, Gr, Jq, Pm, Rm, Sv, Sw, Sx, Sy】

会場	6月8日(金) AM1	6月8日(金) AM2	6月8日(金) PM1	6月8日(金) PM2
IC	Af: 地球内部科学	Af: 地球内部科学	Af: 地球内部科学	-
101	Do: 測地学一般	Do: 測地学一般	-	-
102	S5: 内陸想定地震の 強震動予測	S5: 内陸想定地震の 強震動予測	S5: 内陸想定地震の 強震動予測	-
108	-	-	-	-
309	-	Ag: 衝突イベント	Ag: 衝突イベント	Ag: 衝突イベント
310	Rn: 岩石・鉱物 ・資源	Rn: 岩石・鉱物 ・資源	Rn: 岩石・鉱物 ・資源	Rn: 岩石・鉱物 ・資源
311	S6: 広帯域地震学	S6: 広帯域地震学	S6: 広帯域地震学	-
401	Ah: 地球惑星科学の 新概念	Ah: 地球惑星科学の 新概念	Ah: 地球惑星科学の 新概念	-
402	K2: 地殻溶融と 花崗岩マグマ	K2: 地殻溶融と 花崗岩マグマ	K3: マントルプロ セス	K3: マントルプロ セス
403	Gs: 地質ハザード・ 地質環境	Gs: 地質ハザード・ 地質環境	Aj: スケールモデル 実験	Aj: スケールモデル 実験
405	K1: オフィオライト と海洋地殻	K1: オフィオライト と海洋地殻	K1: オフィオライト と海洋地殻	-
409	P4: 惑星表層の科学	P4: 惑星表層の科学	P4: 惑星表層の科学	-
416	V0: 三宅島噴火	V0: 三宅島噴火	V0: 三宅島噴火	V0: 三宅島噴火
417	Sz: 地殻構造	Sz: 地殻構造	Sz: 地殻構造	Sz: 地殻構造
501	Eu: 磁気圏電離圏 結合	Eu: 磁気圏電離圏 結合	Eu: 磁気圏電離圏 結合	Eu: 磁気圏電離圏 結合
502	-	-	-	-
503	-	-	-	-
510	Ev: 宇宙天気	Ev: 宇宙天気	Ev: 宇宙天気	Ev: 宇宙天気
513	Ai: 惑星地球システム	Ai: 惑星地球システム	Ak: 振動・波動 ・周期的現象	Ak: 振動・波動 ・周期的現象

6月8日(金)夜 ポスターセッション(17:00-19:00)

該当セッション記号【Ag, Ah, Ai, Aj, Ak, Do, Eu, Ev, Gs, K1, K2, K3, P4, Rn, S5, S6, Sz, V0】



第四紀学会 2001 年大会のお知らせ (第 2 報)

(項目)

1. 日時, 開催場所の概要 (2001 年 8 月 1 日 ~ 4 日, 鹿児島大学にて)
2. 発表の申し込み (締め切り 6 月 1 日 (金))
3. シンポジウム「南九州における縄文早期の環境変遷」
4. 巡検の概要「薩摩半島南部 (指宿地域) の遺跡とテフラ」(申し込みは次号)
5. 普及講演会「第四紀の自然と人間 - 琉球から南九州へかけての植物・動物・ヒトを結ぶ道 - 」

1. 日時, 開催場所の概要

研究発表大会, シンポジウム及び普及講演会 + 巡検

日程: 2001 年 (平成 13) 年 8 月 1 日 (水) ~ 4 日 (日)

実行委員会: 委員長: 大塚裕之

委員: 井村隆介, 岩船昌起, 大木公彦, 小林哲夫, 笹川幸雄, 塚田公彦, 成尾英仁, 森脇 広

連絡先: 井村隆介 鹿児島大学理学部 〒890-0065 鹿児島市郡元 1-21-35

Tel 099-285-8144 Fax 099-259-4720

開催場所: 一般研究発表, ポスター, シンポジウム

鹿児島大学教育学部 〒890-0065 鹿児島市郡元 1-20-6

普及講演会

鹿児島大学稲盛会館 〒890-0065 鹿児島市郡元 1-21-40

8 月 1 日 (水) 一般研究発表, ポスター展示, 夕方: 評議員会

8 月 2 日 (木) 一般研究発表, ポスター展示, 総会, 夕方: 懇親会

8 月 3 日 (金) シンポジウム

8 月 4 日 (土) 普及講演会 巡検

2. 発表の申し込み

2-1. 一般研究発表の申し込み

今大会では, 一般研究発表をオーラル・セッションとポスター・セッションの 2 つに区分します。ポスターの掲示は終日可能です。

一般研究発表での講演を希望される方は次ページにある「発表申込用紙」(コピーでよい)に所定の事項を記入の上, 「2-3. 講演要旨の原稿の書き方」にしたがった写真製版可能な原稿及びそのコピー 1 部を, 6 月 1 日 (金) までに (必着厳守) 行事委員までお送りください。原稿の行事委員への到着をもって原稿の受け付けといたします。一般研究発表では 1 人一件のみの発表が可能です。オーラル・セッションの発表時間は 1 人およそ 12 分 (質問時間を除く) 程度を予定しています (発表件数によって変更の可能性有り)。発表時間を厳守していただくために, スライド・OHP の使用は合計で 8 枚以内とさせていただきます。十分な説明や討論を希望する方には, ポスター・セッションへの申し込みをお勧めいたします。昨年同様にポスター発表の口頭ショートサマリー発表を行う予定です (各 2-3 分)。オーラル・セッション, ポスターセッションともに講演要旨集に 2 ページ執筆して下さい。オーラルセッションでのスクリーンは 2 幕用意しますので, スライドと OHP を組み合わせて 2 つ使用可能です。なお, 申し込み用紙には, 新たに連絡先としてファックス番号と電子メールアドレスを加えました。連絡を円滑にするために, 是非ご記入下さい。

要旨集原稿の送付先

〒464-8602 名古屋市千種区不老町 名古屋大学年代測定総合研究センター

日本第四紀学会行事委員 中村俊夫あて

(TEL: 052-789-3082, FAX: 052-789-3092, E-mail: nakamura@nendai.nagoya-u.ac.jp)

(本年は, 大会を 8 月 1 ~ 4 日開催としたため, 発表申込締切日を従来よりも 2 週間早く 6 月 1 日 (金) としました。また, 送付先は実行委員会ではありません。お間違えなきようご注意ください。)

2-2. シンポジウムの原稿提出

シンポジウムで発表される方は、「2-3. 講演要旨の原稿の書き方」にしたがった写真製版可能な原稿およびそのコピーに、「発表申込用紙」(コピーでよい)を添えて、6月1日(金)までに上記の行事委員までお送りください。原稿枚数は2ページまたは4ページでお願いします。

2-3. 講演要旨の原稿の書き方

原稿用紙は、発表者各自が用意したA4版白紙を、横書き・縦置きで使用してください。左右各2.5cm、上端3.0cm、下端3.5cmは空白にしてください。表題・著者名は、(例)のように和文表題・著者名(所属)、英文著者名・表題の順に書いてください。和文表題は、1行目の左側を1.5cmあけて(左端から4.0cm)左詰めで書いてください。2行以上にわたる場合でも、1.5cmあけて左詰めで続けてください。

和文著者名は、和文表題の後改行して、発表者を右端に右詰めで書いてください。2行以上にわたる場合でも右詰めにしてください。所属は和文著者名の後にカッコをいれて簡潔に書いてください。英文著者名・表題は、和文著者名の後改行して、左詰め著者名・表題の順に「;」でつなげて書いてください(所属は不要)。本文は英文表題の次の1行をあけて書き始めてください。行数・字数は自由ですが、36行・35字程度を目安としてください。不明な場合は昨年の要旨集を参考にしてください。本年も同一仕様です。

ワープロ使用の場合は濃く印字してください。手書きの場合は黒色インクまたは黒色ボールペンを使用し、濃く細く書いてください。手書き図表の場合は黒インクを使用し原稿用紙に直接書くか、あるいは青色方眼紙・白紙・トレーシングペーパーなどに清書して枠内に貼ってください。図が原稿の上下端、左右端の空白部分にかからないようご注意ください。印刷時にA4版の原稿がB5版に縮小されますので、図の縮尺については「何分の1」という表現はしないで必ずスケールを入れてください。

3. シンポジウム

「南九州における縄文早期の環境変遷」

内容：南九州は幾度もの火山災害を経験しながらも、縄文早期から先進的な社会を出現させてきました。今回のシンポジウムでは大きく2つのテーマを考えており、1つは上野原遺跡を中心とした縄文文化の芽生えと環境について、もう1つは鬼界-アカホヤ噴火が南九州の自然環境(動物の生態を含む)や人間生活に与えた影響について議論する予定です。

4. 巡検

テーマ：「薩摩半島南部(指宿地域)の遺跡とテフラ」

案内者：成尾英仁(鹿児島県博物館)、大木公彦(鹿児島大)ほか

巡検日程(案)

8月4日(土) 8時30分～日帰り巡検 バス利用

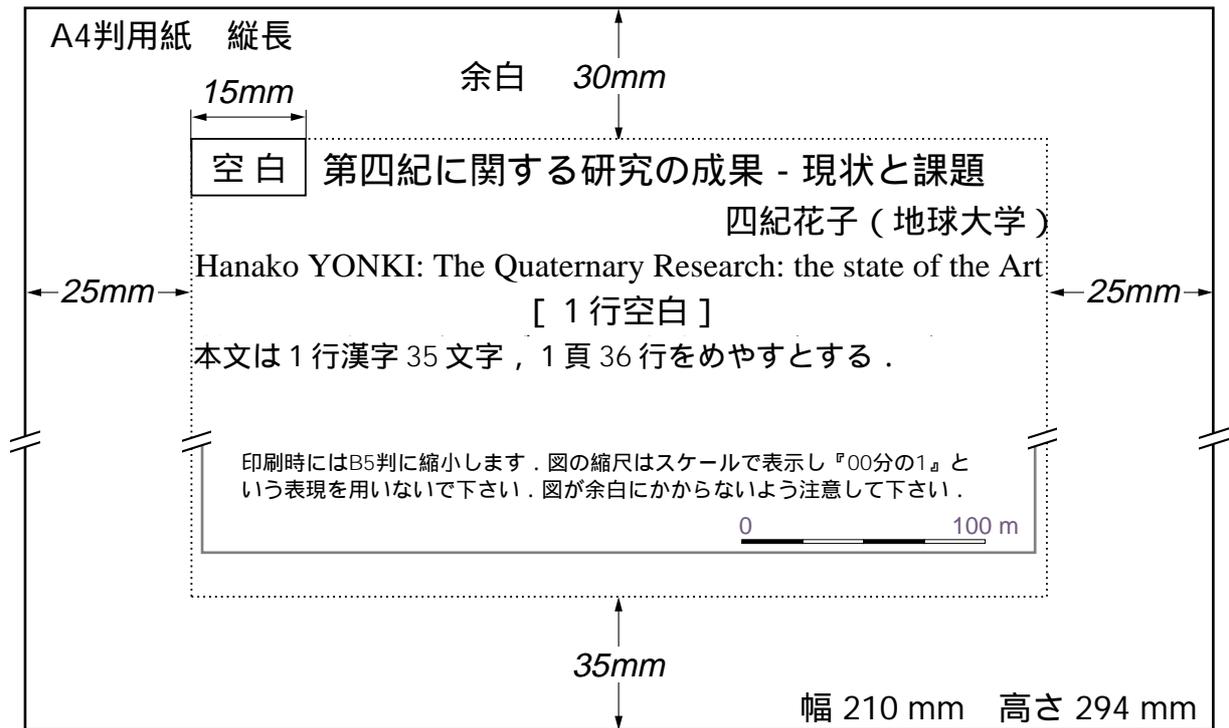
鹿児島大学教育学部前 - 指宿市白山 清見岳テフラ観察 - 指宿市水迫遺跡 - 指宿市立考古博物館
COCCO はしむれ見学 - 開聞町川尻 開聞岳テフラ見学 - 池田湖見学 - 鹿児島大学教育学部

5. 普及講演会

「第四紀の自然と人間 - 琉球から南九州へかけての植物・動物・ヒトを結ぶ道 - 」

趣旨：東シナ海を取り巻く九州南部から南西諸島にかけては、亜熱帯と暖温帯の移行する地域にあたり、暖かい海流「黒潮」が岸边を洗う。そのために、これらの地域および周辺海域は、豊かな生物相を育み、日本の自然の中でも非常に固有度の高い生物相を育ててきた。さらに人の移動と生活文化の交流についても南の要素と北の要素の混在が見られる。同諸島の島々のつながりは、人と文化の交流する「海上の道」でもあり、3万2千年前には、すでに港川人(沖縄)に代表されるヒトがこの地域に生活していた。また南部九州や大隅諸島は、「南の縄文王国」と呼ばれる縄文文化の先進地域であったことが、近年明らかになりつつある。このような地域の自然と人や文化の特性、ならびにそれらの成り立ちを、これまでに蓄積された資料をもとに紹介する。

講演予定者：小田静夫(東京都)、堀田 満(鹿児島大学)、大塚裕之(鹿児島大学)



きりとりせん

発表申し込み要旨

氏名 (所属)			
題目			
発表内容 講演要旨には 掲載しません			
連絡先	〒		
	Phone		Fax
	e-mail		
発表種別	一般研究発表		シンポジウム
をつける	オーラルセッション	どちらでもよい	ポスターセッション
スライド・ OHPの使用 をつける	スライド (8 枚以内)	スライド + OHP (8 枚以内)	OHP (8 枚以内)

The First International Meeting on both Sea-level changes and coastal evolution (INQUA) and Neotectonics (INQUA) (第2報)

「第四紀通信」7巻3号でお知らせ致しました下記の国際会議に関する SECOND CIRCULAR が発刊されています。現在迄に内外約50名の登録者があり、keynote speaker として Kerry Sieh, John Chappell および Kelvin Berryman 氏が予定されています。この会議には、日本第四紀学会の「海面変化・海岸環境変遷」と「ネオテクトニクス」両研究委員会も協力しています。まだ本会議における発表および巡検の受付は可能ですので、広い分野から多くの方々の参加を期待しています。なお、Registration Form および Reservation Form は本学会のホームページ (<http://www.nacsis.ac.jp/qr/taipei2c.doc> または <http://www.nacsis.ac.jp/qr/taipei2c.html>) からダウンロードしていただければ幸いです。その他、不明の点は太田陽子までお尋ね下さい。以下はセカンドサーキュラーの要約です。

**The First International Meeting on both Sea-level changes and coastal evolution (INQUA) and Neotectonics (INQUA)
Eastern coast of Taiwan and 1999 earthquake landform**

October, 17-24, 2001

The INQUA Commission on Sea level Change and Coastal Evolution and Commission on Neotectonics, International Union for Quaternary Research (INQUA) together with the Quaternary Research Group of the Geological Society of China located in Taipei, take the pleasure in announcing the First International Meeting which will be held at National Taiwan University, Taipei in October 17-24, 2001. The meeting is open to scientists with interests in sea-level changes and coastal evolution as well as neotectonics. Thank you very much for your interest on this meeting.

Objective

The main objective of this meeting is to provide a forum for presentation and discussions on recent developments in sea level change, coastal evolution and neotectonics on global, regional and local scales of the world and to stimulate these studies among colleagues with new findings.

Themes

Active fault and its landforms, Earthquake faults associated with major earthquakes, Neotectonics in orogenic belts, Coseismic movements of coastal terraces, Shoreline evolution in tectonic active areas.

Call for Abstracts

Participants willing to present a paper/poster are requested to submit a title and extended abstract by 30 June, 2001 to Ping-Mei Liew (address below).

Registration fee

Regular: \$ 120, Accompanying: \$80, Student: \$80, Field excursion: \$300

Excursion

A four-days post-conference field excursion to eastern coast and 1999 earthquake fault are planned under the subject "Coastal evolution and neotectonics of the young mountain belt".

Organizers: Professor Ping-Mei Liew, Professor Yoko Ota, Professor Akio Omura
Contact: Ping-Mei Liew,

Department of Geosciences, National Taiwan University
245, Chou-shan Rd., Taipei, Taiwan, Fax: 886-2-23636095

E-mail: liewpm@gl.ntu.edu.tw, Tel: 886-2-23630231 ext 2347

<http://www.nacsis.ac.jp/qr/taipei2c.doc> or <http://www.nacsis.ac.jp/qr/taipei2c.html>

Past Climate Variability Through Europe and Africa.

27 - 31 August 2001. Centre des Congrès, Aix-en-Provence, France.

IGBP-PAGES PEPIII are pleased to announce the above palaeoclimatology conference, which aims to synthesise our current understanding of climate variability and its impacts through Europe and Africa (the PEPIII transect).

The conference will consist of a number of plenary presentations from invited speakers and a series of poster sessions open for all participants. The plenary sessions will place the PEPIII transect both within a global climatic context and in relation with other palaeoclimatic programs, and will highlight new results along the transect.

Further details of poster abstract submission and registration can be found at the conference at <http://www.geog.ucl.ac.uk/ecrc/pep3/aix2001/>

INQUA Neotectonics Commission Workshops

UPLIFT AND EROSION: DRIVING PROCESSES AND RESULTING LANDFORMS

September 20 and 21, 2001, Certosa di Pontignano (Siena, Italy)

Convenors: Ernesto Abbate, Carlo Bartolini, Mauro Coltorti, Iain Stewart Scientific advisory committee: Franck A. Audemard, Brueckner, Marburg, Burbank, Hiroo Ohmori, Summerfield

Objectives

The focus of the Symposium will be on spatial and temporal variations in uplift rates in active orogenic belts and on passive margins, and their impact on denudation and sediment transfer. Contributions on the role of pre-existing litho-structural control on relief forms within an uplifting chain, the influence of different styles and rates of tectonic deformation, and the implications of mountain growth for regional climate are welcome.

Abstracts should reach the Workshop Secretariat by 1 May 2001.

Second circular: <http://inqua.nlh.no/commpl/shore01.htm>

SEISMICALLY INDUCED GROUND RUPTURES AND LARGE SCALE MASS MOVEMENTS 21-27 September, 2001, Roma-Siena-Camerino-Cosenza-Roma,

Deep-seated gravitational slope deformations in the Umbria-Marche Apennine; 1972 Ancona earthquake ground fracturing and 1982 Ancona landslide; 1997 Central Italy earthquake, tectonic ground ruptures in the Colfiorito basin and large scale gravitational phenomena near Sellano; Holocene surface faulting along the Fiamignano fault (Salto River basin, Rieti) and associated large scale gravity slope deformation; 1980 Irpinia (Southern Italy) earthquake ground ruptures, landslides and lateral spreading phenomena; earthquake induced ground ruptures and paleoseismology in the Mt. Pollino area (Southern Italy); 1783 and 1905 Southern Calabria earthquakes, deep-seated gravitational slope deformations and seismically induced landslides. A meeting with paper and poster presentation will be held at CNR-IRPI (Rende, Cosenza) on September 26.

Contact: Francesco Dramis fax: +39.06.54888201; e-mail: dramis@uniroma3.it

Alessandro M. Michetti fax: +39.031.326230; e-mail: michetti@fis.unico.it

アメリカ・デスバレーの第四系と地殻変動：巡検案内書

カリフォルニア州東部，Basin and Range 地域西縁に位置するデスバレーは，右横ずれ+伸張テクトニクスに伴う沈降をもたらした北米大陸最低の-86mという標高で知られている。第四紀学からみたデスバレーは，盆地形成に関わる複雑な断層運動，鮮新世以来の多雨期に繰り返された湖の湖成層と旧汀線地形，そしてロングバレーやイエローストーンからもたらされた広域テフラ，など興味につきない。2001年2月，アメリカの第四紀研究者の自主的な集まりである，Friedns of Pleistocene, Pacific Cellが実施したデスバレー巡検に際して，デスバレーの第四紀研究の最新の成果を通観した巡検案内書が発行された。255ページの案内書には，3日間の巡検の詳細な解説と14編の論文が収められ，下記から入手することができる。

U.S. Geological Survey Open-File Report 01-051

-PDF files <http://geology.cr.usgs.gov/greenwood-pubs.html>

-書籍 (\$18+送料): Death Valley Natural History Association

P.O. Box 188, Death Valley, CA 92328-0188

760 786-3285 (ph); 760 786-2236 (fax) devahstry@aol.com

2000年日本第四紀学会第2回評議員会議事録

日時：2001年1月27日(土) 14:00 ~ 16:30

場所：筑波大学学校教育学部 G204号室

議長：陶野郁雄

出席者：米倉伸之(会長), 赤羽貞幸, 新井房夫, 上杉陽, 遠藤邦彦, 小野 昭, 小田静夫, 河村善也, 菊地隆男, 熊井久雄, 小泉武栄, 斎藤文紀, 鈴木毅彦, 竹村恵二, 陶野郁雄, 中村俊夫, 兵頭政幸, 真野勝友, 町田 洋, 山崎晴雄,(以上評議員), 中川庸幸(学会事務センター), 委任状15通
米倉伸之会長の挨拶の後, 陶野郁雄評議員を議長に選出し, 下記の報告と審議が行われた。

I. 報告事項

1. -1 庶務

- (1) 会員動向(2000年12月31日現在): 正会員1860名(うち, 学生費会員183名, 海外会員26名を含む), 名誉会員 5名, 賛助会員12社, 団体購読会員105団体. 逝去会員 衣笠直直, 元評議員池辺展生氏. 2000年7月31日現在と比べて, 正会員+9名(うち, 学生費会員+2名, 海外会員+1), 団体購読会員-1. 1年前と比べて-2名, 2年前と比べて-1名.
- (2) 2000年度第1回評議員会を2000年8月24日に国立歴史民俗博物館において開催した. 出席者17名, 委任状20通. 議長: 春成秀爾. 2000年総会を国立歴史民俗博物館において開催した. 議長: 坂上寛一. これらの詳細は, 議事録として第四紀通信7巻5号に掲載した.
- (3) 引用許可の受付, 会員名簿整理, 寄贈図書 of 受付(2000年8月から1月20日までに19冊)を行った.
- (4) 以下のシンポジウム・講演会等の後援を行った.
 - ・北海道開拓記念館主催シンポジウム「フゴッペ洞窟シンポジウム: 過去・現在・未来」(2000年11月18日~20日)の後援
 - ・第14回国際オストラコーダシンポジウム「21世紀のオストラコーダ学に向けて」(2001年8月1日~4日)の後援
- (5) 大学評価委員会専門委員及び評価委員候補者の推薦に関して, 8月21日までに推薦するよう大学評価・学位授与機構から連絡が有り, 会長・幹事長とも相談した結果, 会長と副会長の2名を専門委員候補として提出した.
- (6) 日本学術会議第18期各研究連絡委員会等への委員の選出を行った.
 - ・第四紀研究連絡委員会: 小泉 格・斎藤文紀・真野勝友・吉川周作(以上地質古生物), 海津正倫・町田洋(地理), 小野 昭(考古人類), 坂上寛一(土壌動物植物), 中村俊夫(地化地物工学).
 - ・古生物研究連絡委員会: 小泉 格, 辻 誠一郎
- (7) 2001年日本第四紀学会論文賞に向けて 推薦論文の募集を第四紀通信に掲載準備し, 論文賞選考委員の選挙を行った. 米倉伸之会長から推薦された11名の候補者に対して, 評議員による選挙を行った結果, 以下の5名が候補者として選出された. 赤羽貞幸, 小野有五, 那須孝悌, 松下まり子, 春成秀爾. 次点福岡孝昭. 以後本人の了解を得て, 発足する.
- (8) 研究委員会の募集を第四紀通信を通じて行い, 以下の2件の申請があった.
 - ・新規(末尾資料参照)

(1) テフラ・火山研究委員会: 2000年度~2003年度(4年間) 代表者: 鈴木毅彦

(2) 高精度¹⁴C年代測定研究委員会2000年度~2003年度(4年間) 代表者: 中村俊夫

(9) 学生会員届の提出について

就職後も学生・院生として登録され, 正会員の年会費を支払っていない会員が多いことから, 2000年度から学生・院生は, 毎年学生会員届(学生会員継続届)を学会事務センターに提出してもらうことにした. なお, 未提出の会員は, 正会員へ2000年度から移行する.

1. -2 行事

- (1) 2000年大会(総会, プレシンポジウム, シンポジウム, 一般研究発表, 懇親会, 巡検, 普及講演会)を千葉県立中央博物館及び国立歴史民俗博物館にて2000年8月23~27日に開催した.
 - 23日は千葉県立中央博物館にてプレシンポジウム「房総半島の第四紀-地層・地形から読む海水準変動とテクトニクス」(オーガナイザー: 岡崎浩子・江口誠一・奥田昌明)(話題提供11件)を実施し, 24~25日は, 国立歴史民俗博物館にて一般研究発表(口頭発表41件, ポスター発表28件), 評議員会, 総会, 懇親会を行った.
 - 26日は, シンポジウム「21世紀の年代観-炭素年から暦年へ」(オーガナイザー: 春成秀爾・今村峯雄・中村俊夫・辻 誠一郎)(話題提供8件)を実施し, シンポジウムの合間に国立歴史民俗博物館長佐原眞氏による普及講演「考古学の年代」を行った.
 - 27日は, 巡検「地層から読む海水準変動とテクトニクス」(案内者: 岡崎浩子・中里裕臣・佐藤弘幸)を行った. 23日のプレシンポジウムの登録者は141名(内会員79名, 非会員62名), 24~26日における登録者は, 279名(内会員195名, 非会員84名)であった. 懇親会参加者85名, 巡検参加者は, 案内者6名を含めて38名であった. 要旨集287冊, 巡検資料集5冊, またシンポジウムの内容に合わせて準備した「先史時代の¹⁴C年代資料集」660冊を販売した.
- (2) 2001年6月4~8日に国立オリンピック記念青少年総合センターで開催される地球惑星科学関連学会2001年合同大会に参加するため, 「第四紀」のセッション提案(オーガナイザー: 鈴木毅彦・渉外幹事・中村俊夫行事幹事)などの準備を行った.
- (3) 日本第四紀学会2001年大会の総会, シンポジウム, 普及講演会, 巡検等の準備を行った. 大会は, 2001年8月1~5日に鹿児島大学で行われる(実行委員長: 大塚裕之). 1~2日に評議員会, 一般研究発表会, 総会, 懇親会, 3日にシンポジウム「南九州における第四紀末期の環境変遷と人類活動(仮題)」を予定している. 4日には普及講演会「第四紀の自然と人間-沖縄と鹿児島を結ぶ道=琉球から南九州のヒト・動物・植物(仮題)」を予定している. また, 4~5日はシンポジウムの内容に関連させて, 成尾英仁・大木公彦ほかの案内による巡検「上野原を中心とした先史遺跡と火山灰層序(仮題)」を準備中である. なお, 普及講演会の開催のために平成13年度科学研究費補助金「研究成果公開促進費」(研究成果公開発表(B))を申請した.

(4) 日本第四紀学会2002年大会の会場選定を行い、信州大学理学研究科に打診を行い、内諾を得た。

1. -3 企画

(1) 第8回日本第四紀学会講習会を、鹿児島県国分市上野原遺跡で開催予定。テーマは「縄文時代の技術の復元 土器の文様復元、食物調理法を調べる」を予定。

1. -4 渉外

(1) 地球惑星科学関連学会

< 2001年合同大会関連 >

第四紀学会としてセッション「第四紀」を応募し採用された。また、今回初参加となる地質学会より幾つかのセッションについての共催希望の申し入れがあり、これを受けた。地質学会との共催セッション時間を考慮し、セッションの日時を6月6日午前・午後前半とした。

大会の会期は2001年6月4日-8日(6月3日: 青少年セミナー)、会場は国立オリンピック記念青少年総合センターである。詳細な案内は、今までの個人登録者に限り電子メールにて配信されている。なお、第四紀通信にも掲載する。予稿集原稿投稿と事前参加登録は1月10日より開始され、それぞれの締め切りは3月2日、3月30日である。予稿集原稿投稿料(1,500~3,000円)に関しては昨年度と同様に、投稿日によって段階的に値上げするシステムである。

< 連絡会 >

9月29日に東工大にて開催され、WPGM2000大会の報告、2001年合同大会および2003年IUGG(札幌)の準備報告がなされ、その他、連絡会と運営機構のあり方、地球惑星科学関連学会の名称についての議論がなされた。

(2) 自然史学会連合

10月14日に国立科学博物館新宿分館において学会連合総会が開催され、決算・執行状況が報告され、予算案、地域博物館アクションプランに関する審議・議論がなされた。また、総会後にシンポジウム「21世紀の自然史科学における画像データベース」(分館・研修研究館)が開催された。

この他、1月10日に自然史学会連合事務局より、日本魚類学会からの提案「水産庁によるブラックバス類の漁業権魚種認定作業に対する見直しの要望」に対し、各学会で議論し同意していただきたいという提案があった。

(3) 地質科学関連学会協会

前回の評議会以降とくになし

(4) 地球環境科学関連学会協議会

前回の評議会以降とくになし

1. -5 編集

(1) 「第四紀研究」39巻5号(2000年10月号)(原著論文 4編、短報 3編、書評1編、78頁)、6号(2000年12月号)(原著論文 6編、短報 1編、Quaternary Perspective, 94頁)を刊行した。

(2) 40巻1号(2001年2月号)は原著論文 4編、短報 3編で編集・印刷中である。40巻2号(2001年4月号)は掲載論文が確定している。

(3) 2000年大会シンポジウム特集号「21世紀の年代観-炭素年から暦年へ」(編集委員会: 春成・今村・

中村・辻・竹村)は、8編の論文と総合討論からなり、現在編集中である。

(4) 2000年度大会プレシンポジウム「房総半島の第四紀-地層・地形から読む海水準変動とテクトニクス」の発表者による特集や国際セミナー「ヒマラヤ・チベットの昇と地球気候変動」の特集も企画され、編集が開始されている。

(5) 2000年投稿論文数(通常号で特集号は除く)は49編であった。

1. -6 広報

(1) 「第四紀通信(QR Newsletter)」Vol. 7-5(2000年10月)、Vol. 7-6(2000年12月)を刊行し、Vol. 8-1(2001年2月)を準備した。(2) 文部省学術情報センターのインターネットWWWサーバ上の日本第四紀学会ホームページを通じて広報活動を行った。(3) 「第四紀通信(QR Newsletter)」の最近のバックナンバーを電子文書(PDF)化して同ホームページに掲載した。

2. 2000年度会計中間報告

省略

3. 第四紀研究連絡委員会報告

参考資料

第18期・第1回第四紀研究連絡委員会 議事録(案)

日時: 2000年11月29日(水) 13:30~16:00

会場: 日本学術会議会議室

出席: 米倉伸之 赤羽貞幸 海津正倫 大村明雄 斉藤享治 斎藤文紀 中村俊夫 町田 洋 小野 昭
欠席: 小泉格 坂上寛一 真野勝友 吉川周作(順不同敬称略)

1. 報告

1) 第17期からの申し送り事項(資料あり)

特に2007年のINQUA大会招致検討のワーキンググループの活動を継続することになった。現委員をふくめて、人数を増やし、異なる年齢層の人を含めて検討する。また早い機会に公聴会を開く。

2) 学術会議報告(資料有り)

研連の見直し問題は決着していない。今期の課題の一つである。

2. 審議

1) 研連委員長と幹事の選出

審議の結果、委員長に町田 洋、幹事に大村明雄、小野昭が選出された。

2) 18期の活動計画

-1 国際対応: 2003年のINQUAへの対応。研連委員長が代表者となる。

・INQUA日本招致検討ワーキンググループ委員会には、17期からのメンバーに加え、中村俊夫、斉藤享治両氏が加わるようになった。

・INQUA日本招致検討については今後のスケジュールを次のように考えた。2001年 鹿児島大会で議論し、意見を聴く。2002年 第四紀学会大会(夏)に意志決定する。その後必要な対応をする。

-2 国内活動: 各種シンポジウムを開催する。

今期の研連委員は、次回までにシンポジウムの内容を考えてくることになった。またシンポジウムの性格を

めぐって自由に討論した。

4. その他

日本第四紀学会と日本古生物学会が主催する第7回国際古海洋学会（札幌）に関しての近況報告が大場忠通評議員からの報告をもとに米倉会長から行われた。

II. 審議事項

(1) 研究委員会の承認

2000年度開始の新規の研究委員会として提案のあった以下の2つの委員会が提案され承認された（末尾参照）

テフラ・火山研究委員会：2000年度～2003年度（4年間）

代表者：鈴木毅彦

高精度¹⁴C年代測定研究委員会 2000年度～2003年度（4年間）

代表者：中村俊夫

これらの委員会には、会合等の案内や毎年の活動報告を第四紀通信に掲載して頂くこととなります。御関心が有る方は、直接担当者にお問い合わせ下さい。

(2) 会費滞納者の処遇に関して

3ヶ年以上の会費滞納者に関しては、毎年数回にわたり督促状を送付しておりました。しかし、一部の会員については、昨年11月までに納入がされないことから、12月に、会員として継続を希望するか、また除籍を希望するか等のアンケートを実施した。3年以上の会費未納者総数は89名のうち、全額支払い（17名）以外は、未回答者60名（住所不明による差出人戻し21名）、除籍希望者5名、在籍希望で特別の措置を希望7名、となっており、審議の結果、除籍と会員継続希望の会員に対しての特別措置が承認された。

(3) 2001年4月の国立研究所の独立行政法人化などの大幅な会員移動が予想されることから、今年度予定されている会員名簿の作成を4月以降にずらし、予備費積立金を用いて会員に直接郵便で問い合わせる方法により調査を行うことが提案され承認された。

(4) その他

学会へ寄贈された書籍に関しては、都留文化大学上杉研究室、歴代幹事のもとに保管されてきたが、将来のことを考えて、保管場所を検討した結果、東京都立大学（小野研究室）を候補に検討することになった。

学会の出版する雑誌などの著作権に関して日本第四紀学会としては著作権は有するが複写に関しては自由にしてきた。論文に掲載された図表や本文の内容に関しての他の出版物での利用に関して上杉評議員から対策が必要ではないかとの意見が出され、本件に関して討議した。

日本第四紀学会の標語に関する意見が出され、今後とも検討していくことになった。

提案のあった委員会

委員会名：高精度¹⁴C年代測定研究委員会

代表者名：中村俊夫

連絡先：〒464-8602 愛知県名古屋市中種区不老町
名古屋大学年代測定総合研究センター

Tel: 052-789-3082, Fax: 052-789-3092

e-mail: nakamura@nendai.nagoya-u.ac.jp

目的：年代測定は、第四紀の研究において様々な事象の

編年を確立する為に必要不可欠なもので、過去のいくつかの大会シンポジウムにおいても取り上げられてきました。特に、2000年の国立歴史民俗博物館大会では2000年8月26日に開催されたシンポジウムにおいて、放射性炭素測定法についての議論が展開され、提言が出されました。その主旨は、最近、測定技術の発展が著しく、さらに¹⁴C年代から実際の年代への較正法が広まってきていることを踏まえ、第四紀学会では、学会員や一般の方に放射性炭素年代とそれを較正した年代の正しい理解を推進するため、研究委員会などを設けて、1)基準の作成との普及、2)¹⁴C年代の利用の活発化をはかる、というものであります。この「2000年佐倉宣言」に従って、この委員会を組織し、¹⁴C年代測定用語の統一、およびこれまでの年代の枠組みを検討し、より正確でかつ適切な枠組みに改訂する事を目指します。なお、当面は、¹⁴C法に限定しますが、この研究委員会で議論される成果が、第四紀の研究に用いられる全ての年代測定法の推進の基礎となることを期待します。本研究会では定期的に研究集会を開催して、下記の事を重点に議論します。

(1) 年代測定研究者や年代を利用する研究者の交流をうながし、¹⁴C年代についての偏見や誤解を解消すると共に、年代測定に関する用語の統一を図る。

(2) 測定施設間で、測定技術に関する情報交換を活発化する。

(3) ¹⁴C年代測定の利用を活発化する。

活動予定期間：2000年度～2003年度（4年間）

予想される参加者数：50名

提案者名：辻誠一郎、今村峯雄、奥村晃史、奥野 充、松浦秀治、小野 昭、小池 裕子、谷口康浩、福澤仁之

委員会名：テフラ・火山研究委員会（略称：COTAV-J）

代表者名：鈴木 毅彦

連絡先：〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1

東京都立大学大学院理学研究科地理学教室

Tel: 0426-77-2594(直通) FAX: 0426-77-2589

E-mail: suzuki@comp.metro-u.ac.jp

目的：INQUA Commission on Tephrochronology (COT)は、1991年INQUA北京大会で承認されたCommissionであり、1987年に設立されたThe Inter-Congress Committee on Tephrochronology (ICCT)の流れを汲むものである。これに対してテフラ研究委員会（1999年度まで継続）は、COTに対応する委員会として1992年より助成金交付を受け、COTに関連する情報を委員会のメンバーに伝達し、野外巡検を中心とした研究集会を行ない、最新の研究成果を内外の研究者に紹介すると同時に交流の機会を与えるなどの活動を行ってきた。1999年度で活動期間が終了したテフラ研究委員会にかわり、今回新たにテフラ・火山研究委員会（略称：COTAV-J）を設置し、従来までの活動に加え、より広い活動を進めることを希望する。第四紀学におけるテフラ研究の重要性は従来から広く認められているが、とくに最近、テフラ研究者数が増加し、日進月歩の勢いで研究が進展している。こうした傾向は『第四紀研究』誌上におけるテフラ関連の論文数増加にもあらわれている。このような状況からみて申請する研究委員会に対する期待も大きいと判断できる。

なお、COTは1995年INQUAベルリン大会でCommission on Tephrochronology and Volcanism

(COTAV)と名称変更されて現在にいたる。申請する研究委員会の名称もこれに対応したものである。本委員会の目的は、具体的には以下に記すとおりである。

1)年一回以上 国内にて野外巡検を中心とした研究集会を行なうことにより、最新の研究成果を内外の研究者に紹介し、研究者間の交流の機会を与える。

2)1)を通じて国内におけるテフラ研究の発展を促す。

活動予定期間：2000年度～2003年度（4年間）
予想される参加者数：70名

提案者名：町田 洋・遠藤 邦彦・奥村 晃史・杉原 重夫・長岡 信治・福岡 孝昭・森脇 広

第18期・第1回第四紀研究連絡委員会議事録

日時：2000年11月29日（水）13：30～16：00

会場：日本学術会議会議室

出席：米倉伸之 赤羽貞幸 海津正倫 大村明雄
齋藤享治 齋藤文紀 中村俊夫 町田 洋 小野 久
欠席：小泉格 坂上寛一 真野勝友 吉川周作

（順不同敬称略）

1. 報告

1) 第17期からの申し送り事項（資料あり）。特に2007年のINQUA大会招致検討のワーキンググループの活動を継続することになった。

現委員をふくめて、人数を増やし、異なる年齢層の人を含めて検討する。また早い機会に公聴会を開く。

2) 学術会議報告（資料有り）

研連の見直し問題は決着していない。今期の課題の一つである。

2. 審議

1) 研連委員長と幹事の選出

審議の結果、委員長に町田 洋、幹事に大村明雄、小野昭が選出された。2)18期の活動計画

-1 国際対応：2003年のINQUAへの対応。

・研連委員長がこれへの対応の代表者となる。・INQUA日本招致検討ワーキンググループ委員会には、17期からのメンバーに加え、

中村俊夫、齋藤享治両氏が加わることになった。・INQUA日本招致検討については今後のスケジュールを次のように考えた。2001年 鹿

児島大会で議論し、意見を聴く。2002年 第四紀学会大会（夏）に意志決定する。その後必要な対応をする。

-2 国内活動：各種シンポジウムを開催する。今期の研連委員は、次回までにシンポジウムの内容を考えることになった。またシンポジウムの性格をめぐって自由に討論した。

1999-2000年度 第4回幹事会議事録

日本第四紀学会 2000年 第4回幹事会議事録（案）

日時：2001年1月20日（土）1400～1630

会場：筑波大学学校教育 合同会議室（E233）

参加者：米倉伸之、真野勝友、齋藤文紀、鈴木毅彦

欠席者：熊井久雄、松浦秀治、中村俊夫、竹村恵二、奥村晃史、福澤仁之、小田静夫、中川庸幸

報告事項

< 庶務 >

- 2000年11月分の会員消息が報告された。（2000年11月分）別紙
- 2001年日本第四紀学会論文賞選考委員の選挙の結果、上位5名は、赤羽貞幸、小野有五、那須孝悌、

松下まり子、春成秀爾、次点 福岡孝昭であった。本人の了解と、評議員会での報告の後、委員会が発足する。

3. 日本学術会議からから会員候補選出過程に関するアンケートがあり回答した。

4. 2001年の役員選挙に向けて選挙管理委員会委員候補を選出した。

奥田昌明、金井慎司、須貝俊彦、塚本すみ子、山田周二、吉岡敏和

5. 研究委員会募集に対して以下の2件の応募があった。

(1)テフラ・火山研究委員会：2000年度～2003年度（4年間）

代表者：鈴木毅彦

(2)高精度14C年代測定研究委員会 2000年度～2003年度（4年間）

代表者：中村俊夫

< 渉外 >

1. 2001年の地球惑星科学関連学会合同大会の状況報告があった。

2. 自然史学会連合関連では、日本魚類学会から提案のあった「ブラックバス類の漁業権魚種認定の見直し要望」に関して、第四紀学会としても提案に賛成することにした。

審議事項

1. 2000年度第2回評議員会資料に関して討議を検討した。

2. 今年度に予定されている会員名簿作成に関して、4月から国立の研究機関の多くが独立行政法人に移行するため、名簿の充実を図るために調査方法を検討することになった。

2000年 第5回幹事会議事録

日時：2001年1月27日（土）1300～1400

会場：筑波大学学校教育 合同会議室（G204）

参加者：米倉伸之、熊井久雄、真野勝友、中村俊夫、竹村恵二、小田静夫、齋藤文紀、鈴木毅彦、中川庸幸

欠席者：松浦秀治、奥村晃史、福澤仁之

審議事項

1. 2000年度第2回評議員会資料と議事に関して討議を検討した。

2. 会費長期滞納者に関して、アンケートを基に対処案を評議員会に諮ることにした。また学生・院生の継続届を提出していない会員に対しては、一般会員の請求書を送付することにした。

3. 会員名簿の作成に関して審議した結果、より充実した会員名簿とするため、予備費積立金を取り崩して個人情報調査を行うことで、評議員会で諮ることにした。

第四紀通信に原稿をお寄せ下さい

広島大学文学部地理学教室 奥村晃史 〒739-8522 東広島市鏡山1-2-3
kojiok@hiroshima-u.ac.jp Phone: 0824-246657 Fax: 0824-240320

次号は5月上旬原稿締切 - 6月上旬発行です。
インターネットにアクセスできる方は第四紀学会ホームページ
<http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/qr/>で最新情報をチェックして下さい。